

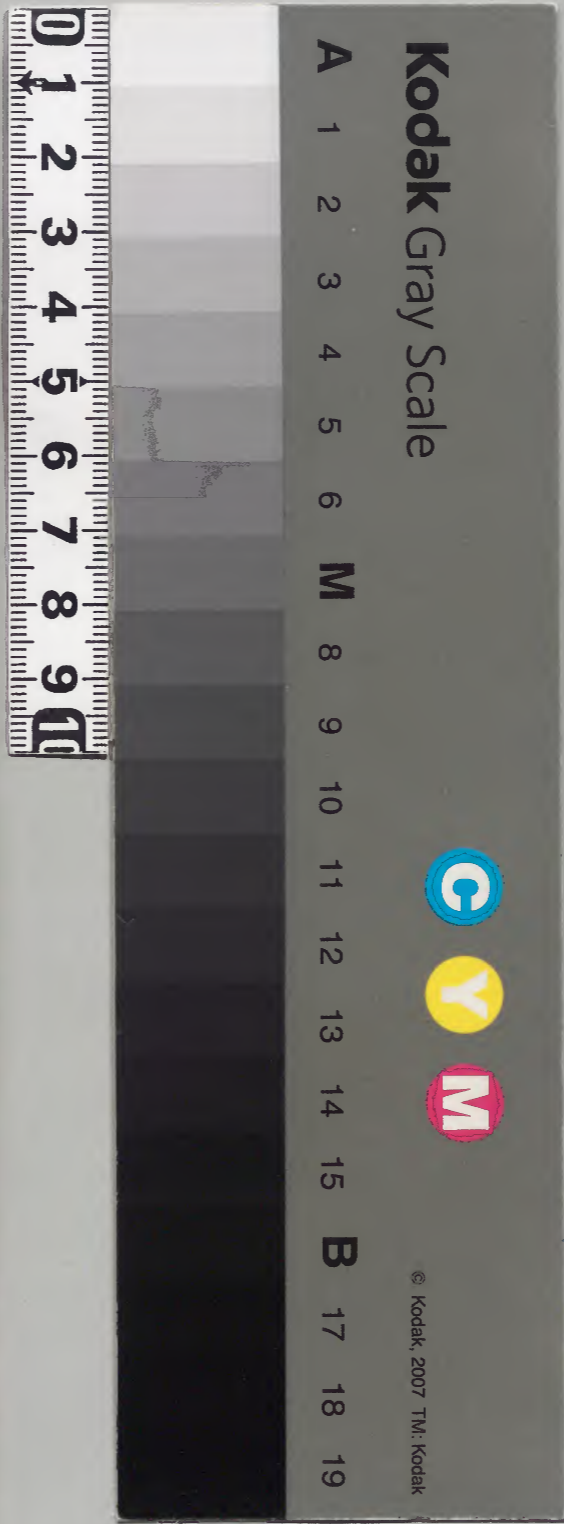
# 寛永癸卯澤

乾

内閣文庫	
番號	和 7954
冊數	2 ( 1 )
函號	153 74

74

庫	文	閣	内
五	七	九	和
三	二	五	書
函	一	四	
二	架	冊	類



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

寛政

三丙

寅年九月六日

將軍家光公

大御所承乃忠公

御上洛御参内御行列之圖

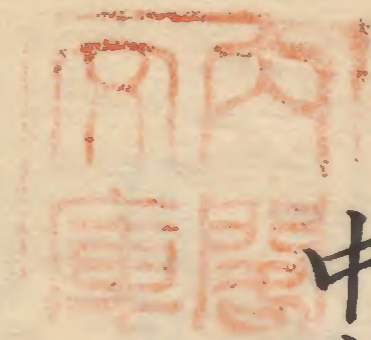
同月同日二條御城江

行幸同十日還幸

禁裏行幸御行列之圖

主上  
百十代  
後水尾院

中宮  
東福門院御所  
秀忠公御姫君



仙基中納言 黒髪束  
馬副二人  
布衣六人  
副合人二人



薩摩中納言  
黒衣  
供の人  
右  
目  
前



加賀中納言  
黒衣  
供之人  
右  
目  
前



備前宰相  
供九人  
太口前

黒装束



越前宰相  
供の人  
太口前

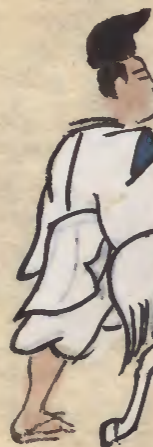
黒装束



若狭少将



長門少将



美作中將

黒装束



仙臺少将



豊前少将



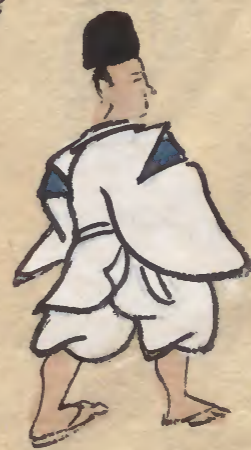
秋田中將

黒装束



會津宰相  
供之人數  
右日前

黒装束



米沢少将

毛利甲斐守

井伊少将

柳川侍従



同懐少将

丹羽右卫门

毛利右京太夫

箱葉侍従



中務侍従

丹後侍従

織田侍従

安藤侍従

赤松侍従



山崎侍従

阿波侍従

伊達侍従

秋田侍従

對馬侍従

筑前侍従



肥前侍従

出雲侍従



松山侍従

姫路侍従

肥後侍従

是より四名諸大夫



郡山侍従

松平左守

有馬玄番

南部信濃守

水野日向守

松平丹波守



平松大和守

平松右京大夫

生駒壹夜守

寺沢忘摩守

松平讃波守

松平或部少輔





加々怒 五拾本



將軍様御供之  
次牙 以上



出納豊後守 赤松末



曲祿一ツ

今上皇帝此の

ころの若

全れをこ一本

たい

あうくだの二本

右之騎をけを行

樂人五十人





たつとるし



巴ぬのかよて  
かよて  
巴十人



御鳳輦



内閣  
圖書

近衛殿  
公卿殿上人曰  
諸大夫何も  
先石騎馬  
より御代



近衛関白九大臣



浄土寺に於て此の如く  
 浄土寺の御堂に於て此の如く  
 その板を以てその御堂の  
 けりしに

長え十四丁  
 浄土寺に於て此の如く  
 浄土寺に於て此の如く



中く... 京らく中此

見物... せんえん

志... 堀川

行... 堀川

殿上人... 堀川

中... 堀川

う... 堀川

ら... 堀川

の... 堀川



七日 樂

万歳乐 地下六人

迺喜乐 六人 奈良院 天王寺院 京院

まんたい 堂上四人 中院侍從 阿野侍從

せんえん 同二人 飛鳥井侍從 四條治部

あきて 四人 天王寺院 西洞院侍從

陵王 一人 奈良院

納蘇利 二人 京院

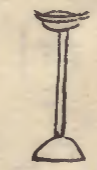
千秋楽 是也 樂をかりあり

我... た... の

七日復歌の會に座とい



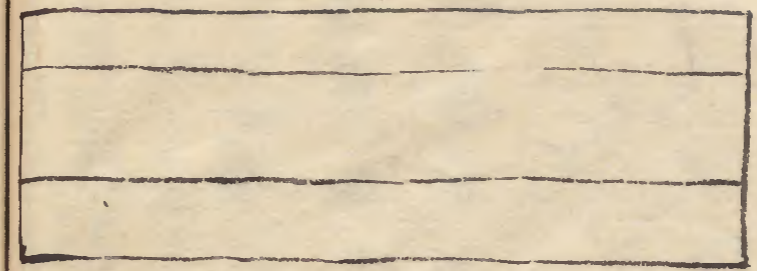
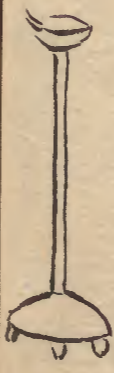
大所公  
 近衛殿  
 伏見殿  
 鷹司殿  
 三条殿  
 亮殿  
 鷹司殿  
 九條殿  
 近衛殿



总座終りて  
 辨卓を特侍前至  
 視箱に懐紙を入れて  
 座上人乃  
 内方の前へ坐

○四辻中納言

冷泉中将  
 三條西  
 爲丸かゝる時五人  
 く籠あさる



將軍公  
 三条殿  
 近衛殿  
 九條殿

水内  
 阿部大納言  
 近衛大納言  
 藤原大納言

女樂退年 佛製

唐乃もも梅つき只女れすくかゝる代りか言をあき孫

これさげの菊代りてとちき歌かか

あふふりぬ君かあきと  
 法幸すわう大忍ハ代あき

右大臣將軍源家光



このころいよいよひかきあつたれ竹の

世々人忠美いふ代をかしき一尾列権大納言源義直  
前代もともに入んゆきのかしき

かかすちのうけの色くま 紀列権大納言源頼直  
あつかり風のころ後を前代も

いふ代をかきよむもかしき 駿列権大納言源忠長  
あつかりけをくれうたのまん 水戸権守細言源頼房

あ代もいふ思ひの圓たみの 近  
あひくすのや庭れ兵弁 園白大右藤原信房

いふあをせもるへさため 信房  
独人もあそのくれ竹 従一位藤原信房

あつかりあ紀後代よりらん 兵部右大臣清親王 伏見  
あつかりあ紀後代よりらん 八十年も

いふあ年ちきり 右大臣兼照 一条  
あつかりあ紀後代よりらん 式部右大臣親王 八条

あつかりあ紀後代よりらん 式部右大臣親王 八条  
あつかりあ紀後代よりらん 式部右大臣親王 八条

あつかりあ紀後代よりらん 式部右大臣親王 八条  
あつかりあ紀後代よりらん 式部右大臣親王 八条

あつかりあ紀後代よりらん 式部右大臣親王 八条  
あつかりあ紀後代よりらん 式部右大臣親王 八条

あつかりあ紀後代よりらん 式部右大臣親王 八条  
あつかりあ紀後代よりらん 式部右大臣親王 八条

あつかりあ紀後代よりらん 式部右大臣親王 八条  
あつかりあ紀後代よりらん 式部右大臣親王 八条

あめらあいつとさるものけいあひくせて

ふむを子世まてやその異竹

権大納言友永光廣 鳥丸

すゑと成さ直代つとあるあまうと竹の

つと家老とあまうとちさうと

九道兼大将教平 鷹司子

のあひあめらあひくせてあひくてもや

けああ。月其そのくられたあ 右近兼大将忠家 九条子

いりうへあまののよとあはあへみん

いりうの竹乃万代のうけ

権中納言友永季絶 菟

いりああ。まの乃をあきとあきてあま

な成よあはを竹ふちさうん

久三議右大臣藤原兼光 折宗

まゝあまん初乃さけ乃あてあひ

あきてつとああ。乃乃乃すへ 藤原

基持

年毎い根さてあまうと

世このあまうとあまうとあまん

後一任藤原實益 西園寺

極さへてか成あまうとあまうと

みうとあまうとあまうとあまうと 後一任友原定基 花山院

かまあへあまうとあまうとあまうと

あまうとあまうとあまうとあまうと 権大納言惣光 廣橋

あまうとあまうとあまうとあまうと

あまうとあまうとあまうとあまうと 権大納言宜季 菊亭

たあまうとあまうとあまうとあまうと

あまうとあまうとあまうとあまうと 中納言實頼 河原

すゑとあまうとあまうとあまうと

竹とあまうとあまうとあまうと 権大納言實頼 冷泉

あまうとあまうとあまうとあまうと

あいにこめておちさうきらん  
侍従忠定 清水谷

きこらちやせと認めおの邦  
神祇伯雅陣王

あさほまの庄代乃たあしきとくまらり  
中宮大進藤系住廣 勧修寺

あしきとくまらり  
少納言菅系為遍 五条

あまのこころの底のくまにけ  
権中將藤親顯 北畠

あまのこころの底のくまにけ  
権中將藤系元親 中山

あまのこころの底のくまにけ  
権大納言藤系公益

あまのこころの底のくまにけ  
中納言藤系宜衛 中御門

あまのこころの底のくまにけ  
侍従藤系基定 侍明院

あまのこころの底のくまにけ  
具起 岩倉

あまのこころの底のくまにけ  
下冷泉

あまのこころの底のくまにけ  
中將藤系為尚

君らよまひれなりと病おひし 中務少将泰室 土府門  
わりきこのちる可代とあり一併

こめてそまひくにおれ行 持長

國氏れつ海と行せありひありひそ

ちよと海念言さなりとみんお将源室秀 庭田

志もなれちさうきてふま久の忠

こまわり行さ八代こ先てお中納言光廣 日野

すまいぬくまにちれんおまぬる

よたのひさあふたは安は 単純 青蓮院

あふ世もからふ忠市代おちさうおま

ともふさうえん庵のふま行 増孝 随心院

おまのたからく忠いられられ行乃

よまやふたの忠いられられ行乃

乃す衆と思ふといひさうさう 實相院

よひいとちされ庵は安行 義尊

あはのあしに生え行のふま 園内院

君らふまのりりおま 常尊

お年うまわわお忠あを忠う代乃 三實院

たのふまお忠庵はれ行 寛定

代ふあまいさうさう此行やひま 寛真

おまのふまうま忠あらん 菴修寺

おまのふまうまの行れ代 昆沙門堂

おまの忠いられ忠そま 公海

おまのれ忠まに忠ま 公海

あ代とあるは新のひらき 兼門田堂 西院

あつかりはあつかりにるひはく 妙法院

えまりの行もつくあ代とぬん 尊覚

あしせある 松もあつかりにるひはく 一寺院

世々あつかりせあつかりにるひはく 尊覚

秋掃列のあつかりは代といふふふ 尊覚

かゝるあつかりはあつかりにるひはく 良光

代りけりてうらぬあつかりにるひはく 道晃 聖徳院

あつかりはあつかりにるひはく 道晃 聖徳院

あつかりはあつかりにるひはく 道晃 聖徳院

あつかりはあつかりにるひはく 道晃 聖徳院

あつかりはあつかりにるひはく 道晃 聖徳院

あつかりはあつかりにるひはく 道晃 聖徳院

あつかりはあつかりにるひはく 道晃 聖徳院

あつかりはあつかりにるひはく 道晃 聖徳院

あつかりはあつかりにるひはく 道晃 聖徳院

あつかりはあつかりにるひはく 道晃 聖徳院

あつかりはあつかりにるひはく 道晃 聖徳院

右以上六十二首之聞書奇人等身不同

八日 御馬

九日 御徒

山科の道友 か(51)

毛方うーたうーのるんあーいあうーとて天天下  
 ほとあー我朝中山北行幸を名をこうたひあう  
 きりあーてや今ととくたうーの河うさうー了陽  
 山あうさう此あああてかひていーああああ  
 へーせいぬんのあけさーとあうの時あからあああ  
 あうたあもあ年の秋とああ長うにさうひあ  
 長うたああたうりあう時とあ

三十良 進友 大少良 笛又三良  
 小新九良 右れ右

七吊 田村 春友 長茂  
 長茂

七老丈 深氏供養 春友 長茂  
 又四良 長茂

七老丈 道成寺 進友 又三良  
 又三良 又三良

七吊 三輪 春友 長茂  
 長茂 長茂

七吊 藤永 進友 又三吊  
 又三吊 又三吊

七老丈 熊坂 春友 長茂  
 長茂 長茂

三十吊 狸 進友 又四吊  
 又四吊 又四吊

御進物之覧

將軍様より上分

一 砂金 三子兩

砂金つみき

一 銀子 三子枚

一 呉服 二百 か地言まきさ長物三十さか入  
ゆらんかあり

一 御馬 十足 かいくとも

一 御手本道風 三金のお板子舟

一 沉香のわし 長さ二間に中四寸四尺穿あり

一 らんげい 百まきさいさく

一 たいまひ 三拾枚

一 志やびり 立竹根のたすけのり入

一 三幅一対 まけいのらんらんあまき 祓虎  
か比古府法箱入

一 和 二百斤

一 活孫まき 七つりさく

一 御物袋 あけりと二ツ入物にのり持片  
か比古まき

一 かりありの大徳を あり

一 御まのい物 あり

一 御太刀文字 一腰 金籠箱なり地言前屋金満の袋入

一 御太刀行平 一腰 所管同

一 花瓶 六つ銀

一 香炉 一つ金柳子

一 露瓶幅丈一ツ但金

一 手桶 きの銀花入

一 孔雀香炉 きの金

一 御礎 四ツ四ニツ古き金

一 御いかりニツ内 キツキツ子  
きりいさきん

一 香炉の銀盤 三十枚

一 たいと金けりり

風合 空金つれ 水指金 御茶籠ニツ金

御茶籠金 才の欠金 水角 金加つき金

蓋置金

一 いんを此御膳道具一膳前少致七十二京

日 かるろニツ段 けいハ空金ニ  
ゆろき一ツ段

一 段の御膳かじ膳前

一 御哥れ會の時之御堂観 世分 可代言前法  
金加るゆい

一 御観文臺

大御新様より上分

一 御大刀富文臺 腰 金つろく御器  
高府法

一 御巾 金のあね  
御器

一 御詠集 一部 行成白筆  
御器 御器  
高府法

一 子帛 忍んぬの図 御器  
同



一 万葉集

古冊 定家御筆

一 伽羅

二拾斤 多るのれ交

中一尺六寸五分中人  
言一尺六寸五分

一 香部

廿斤 香部〇たるつ交入

一 蜜

六拾斤 蜜大つ不二〇入  
これ等のものをかり

一 唐弓

五足 かけくた

一 ひろえり

百疋

一 呉服

百 〇此言前後全のりかけの長物  
二十疋入也た人からかり

同御臺様と五分

一 金子

三百兩

一 呉服

三拾

〇此言前後の長物  
こゝろ入

以上

行幸之時公家庇口 牧進所太刀之寛

一 迫信殿

雲次

馬込大納言殿

守家

一 一条殿

守宗

西園寺家相殿

准慶

二 藤原殿

安供

清原寺大納言殿

信包

九 藤原殿

行平

近中納言殿

守宗

馬前殿

長光

折原家相殿

則宗

八条殿

助吉

伏見殿

信國

高松殿

次吉

高司殿

國村

九条殿

守家

中院殿

采國光

花山院殿

守家

西園寺殿

采國俊

日野大納言殿

菊光

以上

花山院奉指殿

延壽

日野殿

行平

伏見之君史

助依

西河院奉指殿

長光

中御所納言殿

助依

水無院奉指殿

長光

高元院奉指殿

長光

中御所殿

新五五

白川殿

西蓮

合三拾二振

右二條にて七日將軍様より被せし

大將軍家光公

号大猷院殿

大御所秀忠公

号台徳院殿



從寬永三寅年



